

2023年度通期 決算説明資料

2024年5月15日



エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

■ 2023年度 通期（4-3月）実績

< 連結 >

- 売上高、営業利益以下の各段階利益が過去最高。2月発表の修正予想を上回る着地。

< セグメント別 >

- 百貨店事業 円安や株高などの好影響が継続し、都心店を中心に国内外の売上が大幅に伸長
東アジア3カ国の伸長と中国の回復により、インバウンド売上が過去最高
販管費は売上連動経費の増加に対し抑制
- 食品事業 客単価は引き続き前年超え、客数の回復もあり、既存店売上高は前年を超えて推移
販管費は人件費を中心に対予想で抑制
- 商業施設事業 大井開発はビジネスホテルの稼働率が安定して90%を超えて推移、過去最高益
SC関連も効率的な運営を進め増益

■ 2024年度 通期見通し

- 寧波阪急の新規連結に伴うのれん償却費増加、阪神タイガース優勝セールの変動等の減益要因を、百貨店・食品事業の増益で吸収し、営業利益は今期も過去最高益を計画
- 東宝株式売却、寧波阪急段階取得差益、KFM完全子会社化の要因も加わり、当期純利益も最高益更新の見通し
- 配当は前年度の28円から40円へ増配を計画

I . 2023年度 通期実績

II . 2024年度 通期見通し

- 1 . 連結業績
- 2 . セグメント別業績
- 3 . 百貨店事業
- 4 . 食品事業
- 5 . 商業施設事業
- 6 . 特別利益・特別損失
- 7 . 設備投資

I - 1. 連結業績

- ▶ 連結全体好調、特に百貨店事業が牽引し、売上高・営業利益以下全ての段階利益で過去最高
- ▶ 当期純利益は前年、通期予想ともに上回る。年間配当は期初予想+3円の28円。

(単位：億円)	上期 (4-9月)		下期 (10-3月)		通期		
	本年	対前年	本年	対前年	本年	対前年	対予想 (24年2月)
総額売上高	5,052	109.5%	5,687	109.7%	10,739	109.6%	101.3%
売上高	3,185	104.6%	3,389	104.7%	6,574	104.7%	96.3%
営業利益	99	+88	163	+60	262	+148	+17
経常利益	107	+78	172	+70	279	+149	+19
特別利益	10		49		59		
特別損失	12		103		115		
親会社株主に 帰属する 当期純利益	63	+35	156	+20	219	+55	+39

I - 2. セグメント別業績

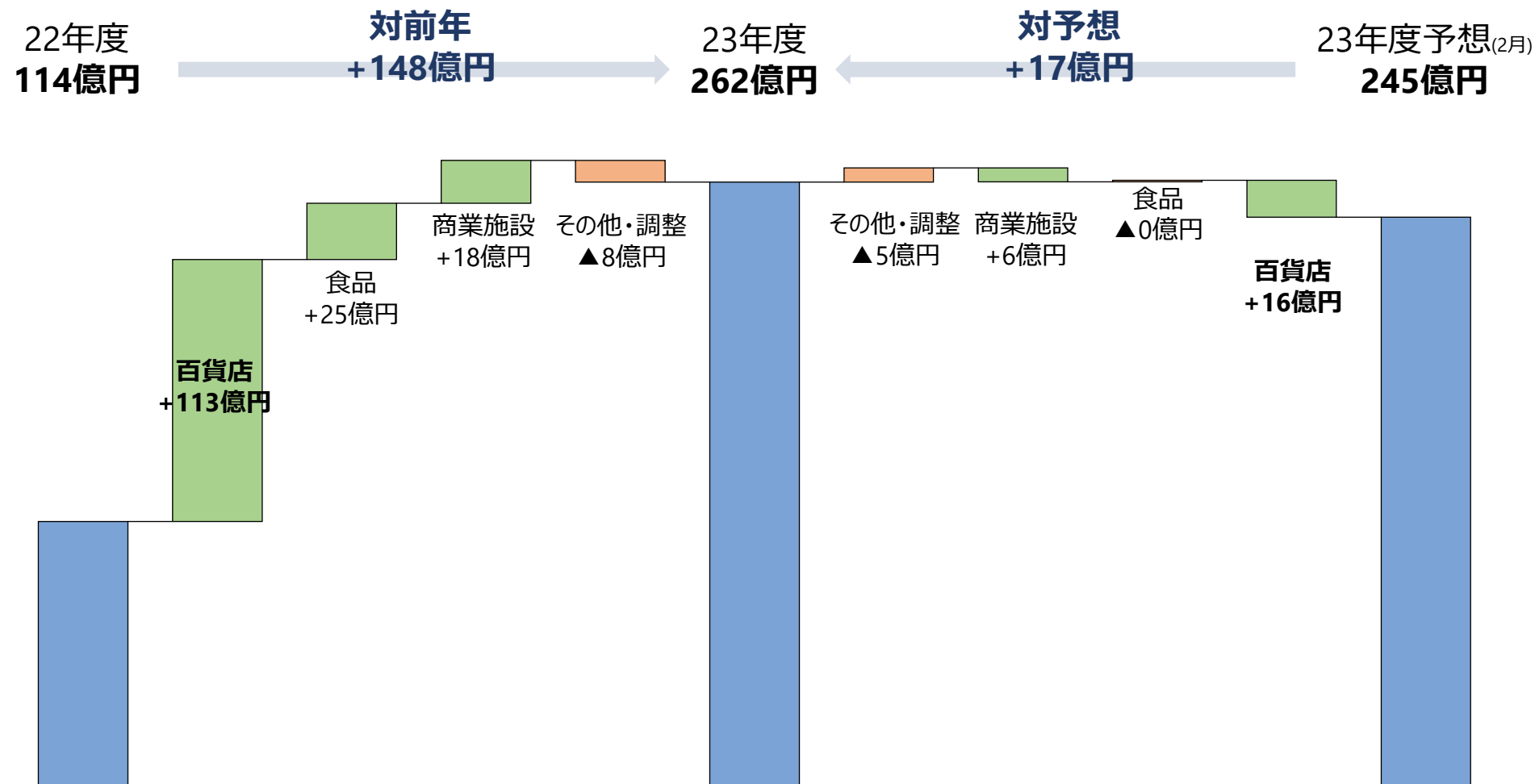
	総額売上高		営業利益		
	本年	対前年	本年	対前年	対予想
(単位：億円)					
百貨店	5,771	117.3%	216	+113	+16
食品	4,256	102.3%	79	+25	▲0
商業施設	321	90.1%	37	+18	+6
その他	390	107.9%	▲0	<u>+31</u>	+2
連結調整			▲70	▲39	▲6
合計	10,739	109.6%	262	+148	+17

(単位：億円)

H2O単体	対前年
営業利益	+25
グループ内 受取配当金	+28
(全額連結消去)	



■ 営業利益増減（対前年、対予想）



I - 3. 百貨店事業—業績概要

- ▶ 高額商材、インバウンド売上が強い都心店が好調。全カテゴリーで前年超え、衣料品・化粧品が2ケタ伸長
- ▶ 売上連動経費が増加したものの、売上増による粗利益増加が大きく上回り増益

阪急阪神百貨店

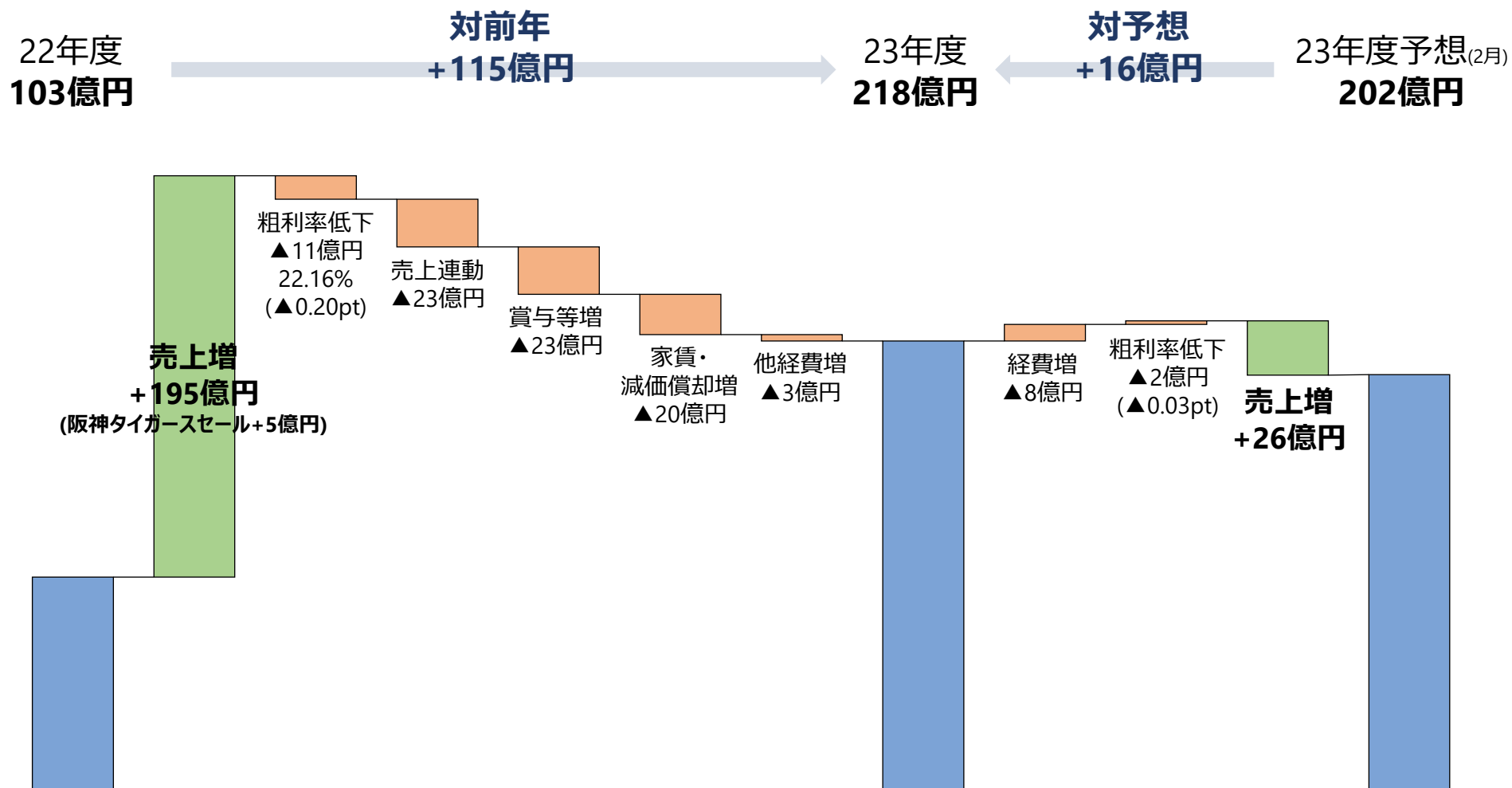
(単位：億円)	上期 (4-9月)		下期 (10-3月)		通期	
	本年	対前年	本年	対前年	本年	対前年
売上高	2,575	117.5%	3,162	117.2%	5,737	117.2%
売上総利益	574	+82	697	+95	1,271	+177
総利益率	22.29%	▲0.14pt	22.04%	▲0.25pt	22.16%	▲0.20pt
その他収入	20	+4	21	+2	41	+7
販管費	524	+32	570	+37	1,094	+69
営業利益	70	+54	148	+60	218	+115

店別売上	対前年
都心店	120%
阪急本店 博多阪急	120% 123%
郊外店	104%

(単位：億円)

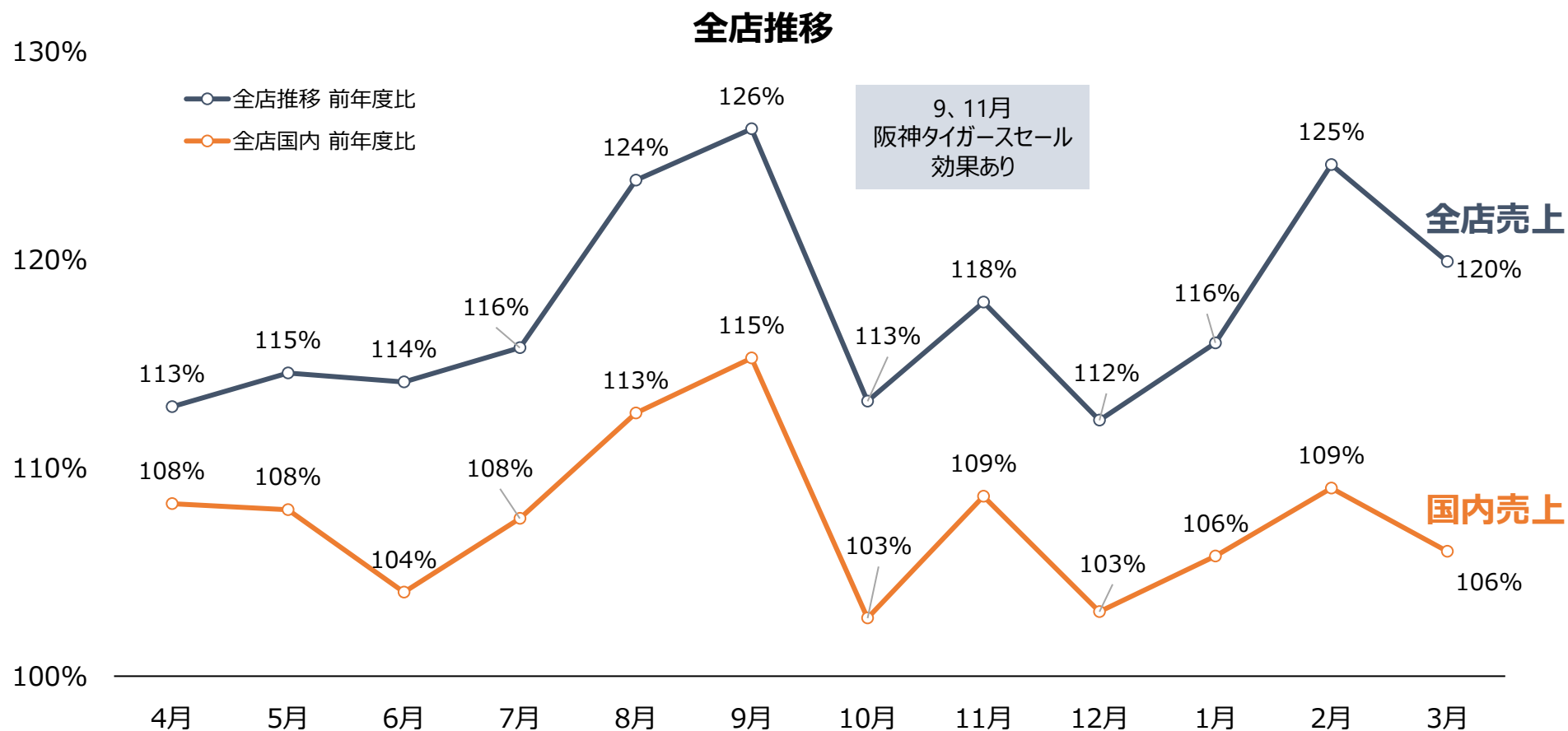
販管費増減内訳	対前年
売上連動経費	+23
賞与等	+23
家賃・減価償却費	+20

■ 阪急阪神百貨店 営業利益増減要因 (対前年、対予想)



I - 3. 百貨店事業—全店売上高推移（前年度比）

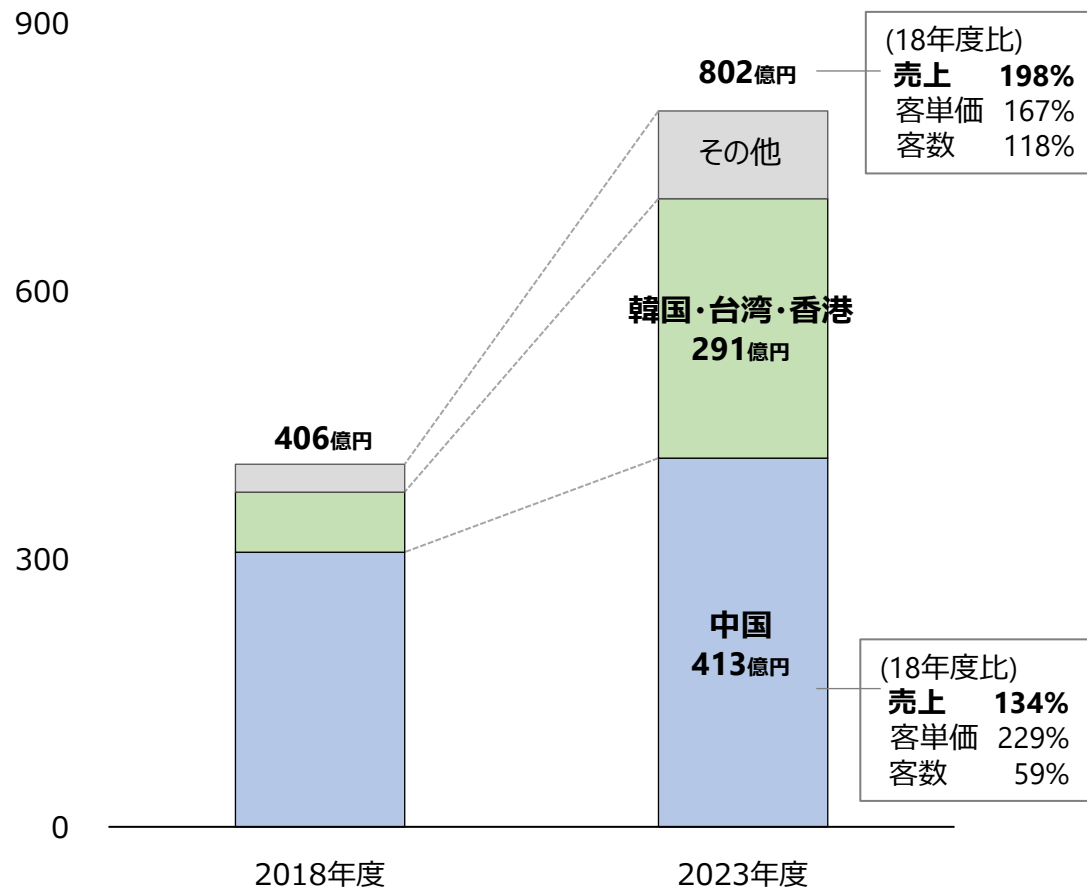
- ▶ 23年度実績) 国内は安定的に前年超え、インバウンド大幅伸長により全店ベースで対前年+17%
- ▶ 24年度見通し) 国内堅調、通期で前年+4%、インバウンドは上期伸びしろ、通期で前年+24%を計画



I - 3. 百貨店事業—インバウンド売上

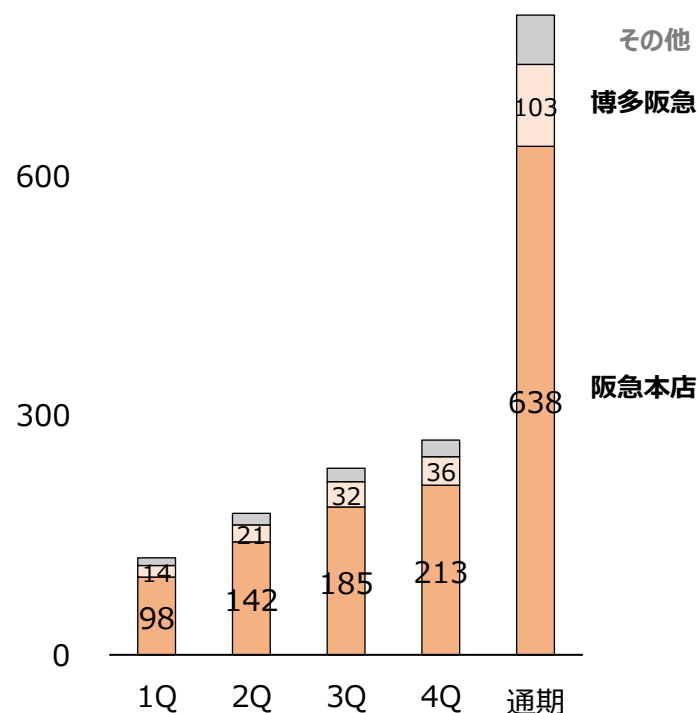
- ▶ 円安により客単価が上昇、客数も月を追うごとに回復を強め、インバウンド売上は過去最高だった2018年度の2倍となる800億円を記録
- ▶ 12月以降は中国の回復が加速し、日商2.9億円で推移。24年度は1,000億円を見込む

単位：億円
900



単位：億円
900

Q別・店別売上



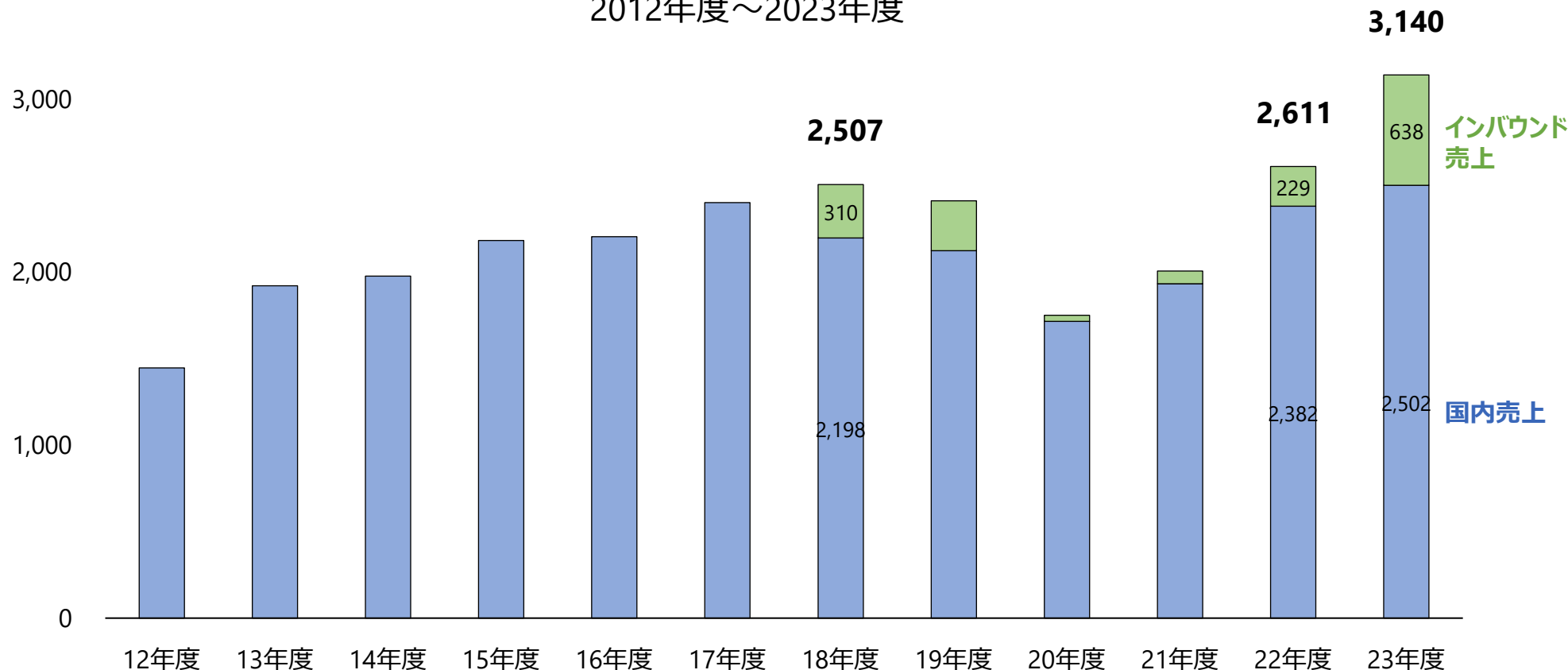
I - 3. 百貨店事業 - 阪急本店売上高推移

- ▶ 阪急本店は圧倒的な地域一番店として国内・インバウンド売上ともに成長を続け、売上高は3,000億円を超え過去最高
- ▶ 国内外富裕層の広域からの集客力拡大、今後も「グローバルデパートメントストア」化を目指し重点投資を計画

単位：億円

阪急本店売上

2012年度～2023年度



I - 4. 食品事業

- ▶ 食品スーパーは客単価の上昇により既存店売上が前年を上回って推移し増収
イズミヤ・阪急オアシスは売上伸長、事業改革効果も加わり大幅増益
関西スーパーは売上伸長と粗利益率改善により過去最高益
- ▶ セグメント全体では増収増益、宅配の新センター稼働と会員システム変更影響により苦戦も、
食品スーパーが業績牽引

	通期				
	売上高		営業利益		
	本年	対前年	本年	対前年	対予想
(単位：億円)					
イズミヤ・ 阪急オアシス	2,489 <small>既存店 104%</small>	102.6%	56	+23	+6
関西 スーパーマーケット	1,305 <small>既存店 103%</small>	102.3%	39	+10	+1
食品スーパー2社計	3,794	102.5%	95	+33	+7
食品製造・ 宅配計	400	96.8%	▲7	▲3	

*収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載

I - 5. 商業施設事業

- ▶ 大井開発が運営するビジネスホテルは年間で高稼働率（90%）を維持し、営業利益は過去最高
- ▶ H2O商業開発の店舗閉鎖により減収も、その他の各SC業績が好調で増益となり、セグメント全体では大幅な増益

	通期			
	売上高		営業利益	
	本年	対前年	本年	対前年
(単位：億円)				
大井開発	63	151.4%	27	+16
H2O商業開発・ 阪急商業開発等	402	87.4%	12	+4

*収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載

I - 6. 特別利益・特別損失

(単位：億円)	主な項目	金額	主な内容
特別利益	固定資産売却益	59	百貨店旧配送センター土地売却等
特別損失		115	
	減損損失	72	SM・SC店舗等
	固定資産除却損	27	H2Oリテイリング 阪急阪神百貨店 (神戸阪急、阪急本店、高槻阪急スクエア)
	店舗等閉鎖損失	10	SC店舗等
	事務所移転費用	3	食品事業 本社部門集約
	関係会社整理損	2	

I - 7. 設備投資

- ▶ 業績回復、資産売却で創出した資金により、IT基盤整備や優先順位の高い成長投資を実行
投資計画の見直し、IT/DX投資の期ズレにより予想を下回る

(単位：億円)	金額	対予想	主な内容
百貨店事業	77	▲11	神戸阪急・高槻阪急リモデル、阪急本店改装
食品事業	66	▲16	SM各店改装・営繕、阪急キッチンエール関西新センター
商業施設事業	20	▲2	H2O商業開発 SC店舗改装
その他事業	156	▲2	グループ全体のIT/DX投資、事務所工事（本社部門集約）
内) IT・DX投資	136	—	MD・基幹システム刷新（食品事業） POS再構築、クラウド基盤構築（百貨店事業）
合計	318	▲31	投資実施時期のズレ、投資内容精査による予想からの乖離

*調整額反映後

II- 1. 2024年度 通期見通し

- ▶ 寧波阪急の新規連結に伴うのれん償却増、百貨店改装工事閉鎖影響、阪神タイガースセール反動等の減益要因に対し、百貨店・食品事業の増益により営業利益は今期も過去最高益を計画
- ▶ 東宝株式売却142億円、寧波阪急段階取得差益により特別利益が拡大、KFM完全子会社化による増益効果（非支配株主利益 24年度約15億円）もあり当期純利益も最高益を計画
- ▶ 配当は前年度の28円から40円へ増配の計画

(単位：億円)	上期			下期			通期		
	予想	前年	対前年	予想	前年	対前年	予想	前年	対前年
総額売上高	5,555	5,052	110.0%	6,070	5,687	106.7%	11,625	10,739	108.3%
売上高	3,390	3,185	106.4%	3,610	3,389	106.5%	7,000	6,574	106.5%
営業利益	106	99	+7	159	163	▲4	265	262	+3
経常利益	103	107	▲4	162	172	▲10	265	279	▲14
特別利益	249	10		0	49		249	59	
特別損失	17	12		58	103		75	115	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	214	63	+151	46	156	▲110	260	219	+41

II- 1. 2024年度 通期見通し

- ▶ 売上は全セグメントで増収
百貨店事業は国内堅調、インバウンド伸長を見込む。食品事業は両SMともに増収計画
- ▶ 営業利益は百貨店、食品事業で大幅な増益を計画。2024年度からのグループ内経営指導料の営業費用への計上変更により百貨店、食品、商業施設セグの営業利益は旧基準と比べ縮小

	総額売上高		営業利益		(参考) 営業利益前年実績		
	予想	対前年	予想	対前年 (新基準に 置き換えた対比*)	(新基準に 置き換え)		(旧基準)
(単位：億円)							
百貨店事業	6,142	106.4%	223	+27	196	▲20	216
食品事業	4,449	104.5%	98	+27	71	▲8	79
商業施設事業	380	118.4%	33	+1	32	▲4	37
その他事業	655	167.6%	▲3	▲3	▲0		▲0
連結調整			▲86	▲49	▲37	+32	▲70
合計	11,625	108.3%	265	+3	262		262

*24年度より、子会社からH2Oリテイリングに支払う経営指導料の計上を見直し
営業利益予想の対前年は前年実績を24年度の経営指導料基準に置き換えた数値で比較

II- 2. 2024年度 通期見通し-設備投資

- ▶ 中期経営計画に則り、回収速度や効率性を意識し優先順位の高い投資を順次実施
- ▶ 新規連結対象の寧波の将来成長に向けた投資を実施、食品事業強化に向けた投資推進

(単位：億円)	金額	対前年	主な内容
百貨店事業	53	▲24	阪急本店改装、再エネ投資など
食品事業	85	+19	阪急オアシス新規出店、改装・営繕
商業施設事業	23	+3	H2OSC 店舗営繕・テナント入替 大井開発（ビジネスホテル一部改修）
その他事業	163	+7	
内) IT・DX	101	▲35	IT・DX投資
内) 寧波	51	+51	地域一番店を確立するため富裕層対応強化を目的に リモデル実施
合計	324	+6	



本資料に記載された情報については、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いませんので、ご承知おき下さい。

また、本資料の著作権は全て当社に帰属し、著作権法に定める私的利用の範囲を超えて無断で、複製・転載等することを禁じます。